

## 平成31年まちづくり懇談会 顛末書

開催日時	平成31年2月8日（金） 午後6時00分～午後7時30分
会 場	本桐基幹集落センター
自治会名	本桐連合自治会
出席者	<p>【町側】 大野町長、本庄副町長、高野教育長、坂総務企画部長、木村地域振興部長、米田住民福祉部長、渡辺健康生活部長、酒井経済部長、上田教育部長、岩淵総務企画部参事監、桂田地域振興課長、池田地域振興課主幹、平田地域振興課主査 以上13名</p> <p>【自治会側】 18名（男性18名、女性0名 議員4名）</p>

### 《顛末内容》

主 な 内 容	
開 会	司会 桂田地域振興課長
会長挨拶	本桐連合自治会長
町長挨拶	大野町長
職員紹介	桂田地域振興課長
資料説明	<p>渡辺健康生活部長</p> <p>1. 「脳・脊髄外来のご案内」について</p> <p>坂総務企画部長</p> <p>2. 「静内庁舎の電話が変わります」</p> <p>岩淵総務企画部参事監</p> <p>3. 「婚活事業について」口頭説明</p> <p>桂田地域振興課長</p> <p>4. 「町長在庁日の取り扱いについて」口頭説明</p>
意見交換 自治会長	部長職に電話をかけたい場合は、どこに電話をすれば良いか。
坂総務企画部長	担当課にお電話していただくと、部長が在籍しているかわかりますので、そこからつなぐこととなります。部長職は会議などで席を外していることが多く、電話が鳴りっぱなしになることがあるので、一度担当の部署につないで、担当部長につなぐこととなります。交換では全ての仕事の細かいところまで判断できず、ある程度話を聞いてつないでいますが、1か所の担当で収まらないケースもありますので、それよりダイヤルインで直接お電話いただくと早く取り次げると思います。

<p>連合自治会長</p>	<p>懇談希望テーマ</p> <p>・防災対策について</p> <p>近年、自然災害について、皆さまが大きな関心を持つようになってきている。大雨による洪水がテレビでも頻繁に報道され、考えてもみないような災害が起きている。それから、去年の地震です。その他に当町においては2月の大雪、その後の雪も氷が降る大雨、梶舞川は今まで見たこともないくらい水かさが増し、地域の皆さまが災害の対応について考えざるを得なくなってきた状態にあります。このような状態を踏まえ、どのように対応したら良いのか。</p> <p>町には防災計画があることは認識していますが、防災計画がどれほど町民に浸透しているか。町内会や自治会がどういう取り組みをしたら良いのか。災害といっても一番怖いのは大雨と地震です。大雨は時系列でどうしたら良いか考える余地がありますが、地震はいきなり起きます。それもいつ起きるか分からない。夜中にきたらどうしたら良いのか、そういうことも日頃からどのように対応していくかということが一番大事ではないかと思えます。いざというときにどうしたら良いかがすぐに頭に出てくるように、町、住民それぞれの意見や知恵を出し合って実のあるものにしていきたいと思えます。一人住まいの方、高齢の方が安心して暮らせるよう災害時にどうしたら良いか、すぐ頭に出てくるような状況をどのように作っていけば良いか考えているところです。連合自治会としても、このことについて、去年は町の担当の方々と対話もしましたし、各単位自治会でもそういうことが話題に上がっているという状況ですので、できるだけ早い時期に何らかの方針、指針となるものを出していければと思います。この点について、自由な討議をしていただきたいと思えます。</p>
<p>坂総務企画部長</p>	<p>まず、災害時の避難対応についてですが、地震、津波による災害の場合は、町では平成25年に作成し、皆さまにもお配りした防災ハンドブックにおいて、津波については本桐市街地手前まで浸水があるものの、本桐市街地までは到達しないという予測になっており、平成23年発生 of 東日本大震災クラスの津波が押し寄せた場合を想定したものです。災害は予想を超えた被害が発生する場合がありますので、地震、津波の場合は、まず自分とご家族の身を守っていただくことが第一です。次に、ラジオ、テレビなどで正確な情報を収集し、津波の危険性がある場合は、速やかに海岸線から少しでも遠くへ避難する、あるいは高い場所に避難する行動をとっていただくのがよろしいと思えます。ただし、津波はいつかの時点で引きますので、その後、被害状況などを確認しながら、避難所の設営が必要な場合は、避難所の被害状況を見て、どこを避難所として開設するのか、町からアナウンスをしたいと思えます。</p> <p>次に、崖崩れ、土石流などの土砂に関する災害ですが、土砂災害警戒区域として本桐の沢川が指定されています。土砂災害から身を守るために、あらかじめ地形や土地の状況などを北海道が調査し、土砂災害が発生した場合に、住民の生命又は身体に被害が生じる恐れがある区域として指定しています。大雨により土砂災害の危険を感じたら、よくある前兆として、山鳴りがする、急に川が濁る、雨が降っているのに川の水位が下がる、こういう場合には早めの避難行動をとる必要があると考えています。</p> <p>また、最近では、町でも今まで以上に気象庁などとの情報共有を進めており、北海</p>

	<p>道や気象庁が共同で発表する土砂災害警戒情報が発せられた場合には、土砂災害の危険が差し迫っていると判断して、避難勧告などを防災無線、携帯電話への緊急速報メール、あるいはテレビに情報が出ますが、これらの手段により情報発信をしていくこととしています。これらの情報が発せられた場合には、早めの避難行動をお願いしたいと思います。</p> <p>洪水による災害の場合については、地震と違い、ある程度前からテレビ、ラジオなどで大雨が降るという予報が出されますので、正確な情報を収集し、早めの避難行動を取ることが重要だと考えています。本桐地区には、北海道が管理する河川として鳧舞川がありますが、インターネットで10分毎の河川の水位を確認できます。国土交通省の河川の災害情報というものですが、氾濫注意水位になると、避難準備、高齢者等避難開始というものを発令します。その場合については、先ほどのような情報伝達方法で皆さまに周知したいと思っていますし、更に水位が上昇した場合には、避難勧告や避難指示を発令することになります。今はこれらの避難勧告などについても、町の方針として、空振りを恐れず発令していく方向で考えていますので、ご理解をいただきたいと思います。</p> <p>それから、自治会や連合組織の防災対応の話がありました。地域の防災力向上のために各自治会にお願いしております自主防災組織の結成があります。本桐地区では、平成21年に本桐第4自治会が自主防災組織を設立しています。自主防災組織は、自分の身は自分で守るという自助と、自分たちの地域は自分たちで守るという共助、行政などによる公助のうち共助の役割を担う重要な組織として位置づけられており、町では自主防災組織による防災活動を積極的に推進するために組織を結成した場合、一回限りですが、防災活動に必要な資機材について助成をしているところです。先ほどお話ししました本桐第4自治会では、毎年自治会で防災講話、防災訓練などを実施しており、その際には町職員、消防職員もお邪魔させていただいて、いろいろなお話をさせていただいている状況です。本桐地区では未設置の自治会が多くあります。三石地区では、越海町と港町では連合で越港自主防災組織を設置しています。連合自治会、あるいは複数の自治会での共同設置でもよろしいですので、ぜひ自主防災組織の設立についてご理解をいただきたいと思いますし、自主防災組織の設立については、町としても協力していきたいという考えでいますので、設立する際には、静内庁舎総務課防災グループか、三石庁舎地域振興課にご一報いただければ、職員を派遣したいと思います。</p> <p>自治会長 本桐12単位自治会のうち、第4自治会だけが活発に活動していますが、そのほかの自治会はそうでもない。自分たちも設立したいと思います。やりましょうという状態にはならない。何か良い方法があれば、もっと簡単に単位自治会で防災活動を実施していけるようなことや人数が少ないのでいくつかの自治会で結成するなど、取組方法があれば教えてほしい。</p> <p>坂総務企画部長 自主防災組織については、合併前に静内地区は早くできました。私は、平成19年から20年に三石庁舎に勤務したときに、できれば三石地区でも自主防災組織を設置していただきたいというお話をさせていただき、その当時、蓬栄福畑地区などで自主防災組織を設置していただきました。その後、他地区でも自主防災組織を設置していただ</p>
--	--

<p>連合自治会長</p>	<p>いていますが、地域の皆さまにとっては難しいことをやるのではないかという感覚になるようですが、町職員が出向きお手伝いさせていただきます。自主防災組織の中では役職を決めていただきますが、単位自治会となると、人数が少ないということであれば、いくつかの自治会が集まったの設立でもよろしいので、まず一度、自主防災組織はどのように作ったら良いのかなど、町からもお話させていただきたいと思います。自主防災組織を設置して、全員でできるかということは難しいと思いますが、自主防災組織を設置することによって、地域の方の防災に関する意識が変わると思います。急に防災意識を変えることは難しいですが、そういう活動を地域の方々が地道にやっていたら、災害のときはこのような行動をとれば良いなど、いろいろと考えていただく機会にさせていただければと思います。</p> <p>災害時には、基幹集落センターも避難所になっています。ここの避難だけで済まない場合には違う場所に避難する方向であるようですが、仮に一時的な避難であっても備品が必要だと思います。毛布、暖房器具、食料品などの備えは現時点でどのようになっているのですか。災害時の対応を考えたときに、不安が付きまとうことを払拭していかなければならないと思いますので、現状と今後の考え方について教えていただきたい。</p>
<p>坂総務企画部長</p>	<p>本桐基幹集落センターについては、指定避難所になっています。備蓄の関係ですが、三石地区は三石中学校の備蓄倉庫に備蓄しています。全てのを町が備蓄するのは難しい問題です。特に水や食料については期限があるので、一定数は備蓄していますが、現在進めているのは、自治体、関係団体、民間事業者と災害協定を結んでいることから、災害時には優先的に供給していただけるということが一つと、地域での防災訓練、防災講話のときにもお話していますが、自らの命は自らで守るという観点から、各自で最小限の非常持ち出し品、そこには若干の食料、懐中電灯など防災ハンドブックにも記載していますし、講話などでもそのことをお話しさせていただいております。そのように実施計画に基づいて、備蓄を進めていきたいと思っています。多くの物を町で持つと、それを更新するために一定の年数が経つと大きな経費がかかってきます。</p> <p>避難所の関係ですが、先般の地震では停電なども起き、地域の核となる施設については、LPガスを使った非常電源を数年前から計画的に整備しています。この本桐基幹集落センターも既に整備しています。</p>
<p>自治会長 ・ JR日高線について</p>	<p>JRが不通になって4年が経過している。我々は新聞記事などでしか情報を見ることができないが、新ひだか町も廃止容認でバス転換をするという方向で進められているようですが、この方針についてお変わりないのでしょうか。</p>
<p>大野町長</p>	<p>私が4月に町長になってからこれまで十数回会議などを行っていますが、私は選挙戦のときは明確に意思表示しませんでした。護岸の状況、線路の状況などを見た中で、これからJRに乗る方がだんだん少なくなって、一方では高規格道路などを整備している中で、なかなか難しいということはずっと思っていました。その中で、地元負担を求めながら線路を維持することはできないのではないかと考えていて、現在バス転換をどう考えているのか、JR廃止でバス転換はどうだということ</p>

<p>連合自治会長</p>	<p>ですが、私としては、バス転換でいくことで変えるつもりはありませんし、早く結論を出して、JR側といろいろな対策を考えるのが日高地域にとって、私たちの町にとってもベストではないかと思っています。その考え方は、私自身、変えるつもりはありません。</p> <p>全国の中で鉄道が維持できなくて、バス転換をしたという事例があちこちにあります。そこで問題となってくるのは、当初は充実した路線を組んでもらって、お年寄りの方も利用しやすい、学生なども利用しやすいということが、5年経ち10年経った頃どうなるかということ、ほとんどが民間の既存のバス会社に委託されて、それを受けた会社が合理化を図ってしまう。その合理化は便数が少なく、時間帯も実態に合わないようなことが起きてしまう。それを行政、地域住民もどうすることもできなくなってしまふ。そういう状況が全国のあちこちであるようです。ですから、バス転換が趨勢だと思いますが、一番懸念するのは、いつの間にか利便性が失われてしまうことで、こんなはずではなかったと言っても誰もどうすることもできない。バス路線に転換するという決断のときには、こういうことがきちんと確約されないと困る。何年か経ったら、そのときの趨勢に任せますでは困る。ですから、そういうことを念頭に置いて交渉にあたっていただければと思います。</p>
<p>自治会長 ・JR踏切内の 修繕、通行につ いて</p>	<p>本桐の踏切は、硬質ゴム板で覆っており、ボルトで止めている状況です。去年の夏、ゴム板が危険な状態のため、町から連絡をしてもらい処置されました。現在は、車道の板が跳ね上がっていて、足が引っかかる状態で、廃止に向かっていくのであれば撤去して、仮でも良いので舗装してもらえないか。それが車に引っかかって車が壊れた、人が足を引っ掛けて転んでけがをしたという危険があるので、完全に廃止されるまで応急処置をしてほしい。今の板ではとても危険なので何とかしてほしいと思います。</p>
<p>岩淵総務企画部 参事監</p>	<p>昨年も踏切のマットについて、すぐにJRの担当から保線区に連絡していただいて、応急処置はさせてもらいました。ただし、何年も持つようなものではないのはわかっていますので、アスファルトというお話もありましたので、地域の皆さまと合意を得られ、許されるならば今のものを剥がしてきれいな簡易舗装にするなど、なるべく車や人に影響を及ぼさないような方向でJRの保線区なり工務課へはお話しさせていただきたいと思います。</p>
<p>自治会長</p>	<p>簡易舗装をしていただけたらありがたい。</p>
<p>大野町長</p>	<p>間違いなくJR側へはお話ししますが、廃線が決まっているわけではないので、線路の部分を埋めてしまうということではできませんので、その機能を残しながら簡易舗装するのか、JR側にきちんとお話ししたいと思います。</p>
<p>自治会員A</p>	<p>踏切は道路交通法では一旦停止しなければいけませんので、浦河町の栄町の踏切で一旦停止せず、徐行する人を捕まえている警察を見ました。本桐の踏切でも、車間距離を取らないで走っている状況なので、踏切内で事故が起こる可能性もあります。休止から4年も経っているのに、踏切で一旦停止しなくても良い方法がとれるのか、そ</p>

<p>岩淵総務企画部 参事監</p>	<p>うでないと追突事故が起こる可能性があると思います。</p> <p>今は真冬なので、車間距離がなければスリップして、そのまま踏切内に入ってしまう、事故の懸念は憂慮されるところです。一時停止をしなくても良い、道路交通法が解除されるかどうかまではわかりませんが、警察、JRの方へ確認はしますが、難しいと思います。解除できるかについては持ち帰らせていただき確認して連合自治会長へご連絡させていただきます。</p>
<p>自治会員A ・ 廃校舎の活用 について</p>	<p>私は本桐小学校の旧校舎を卒業して、娘は今の校舎で卒業しています。学校を見に行くと、壁、アスファルトから草が生えていたり、時計が壊れていたり、百葉箱が吹き飛んでいる状態であります。小学校の問題について、地域の町議さん、町で十分考えて早急にどのようにするか。例えば、災害時に小学校は避難場所として好ましくないと考えていますけれども、何かに使えるのではないかと思いますので、早急に決めてほしいと思います。これ以外にも、あちこちに町の施設、旧温泉施設、遊具施設などが残っている建物もあるので、なるべく早くお願いしたい。</p>
<p>坂総務企画部長</p>	<p>廃校舎の利活用については、これまでも公募をしていますが、電話での問い合わせや現地の見学希望などがありますが、売却には至っていない状況です。東静内にある旧静内第二中学校の校舎は、民間事業者到校舎の一部を貸し付けて事業を行っていますが、これが順調にいった際には校舎を買いたいとの話になっていますので、町としてもそのような方向に進んでほしいと思っています。それ以外の校舎については、他の町村でも学校統合で廃校舎が多くなっている中で、売却できない状況になっています。町でもいろいろと対応を考え、議会の担当委員会にもご説明しましたが、金額的な問題もあるだろうということで、校舎の建物については無償、ただし、土地については価格設定させていただいて、そのような公募方法に変更しようと思っています。できればそれでお話をいただければ良いと思っていますし、ホームページなどで紹介もしていますが、それについても先般、工夫をしてPRするようにと理事者から指示がありましたので、そのような方向で進めたいと思っています。今後そのような対応をし、もうしばらく状況を見たいと思いますので、ご理解をいただきたい。</p>
<p>自治会長 ・ 三石国保病院 の移転について</p>	<p>三石国保病院について、信号の問題や駐車場の問題があるので、梟舞や本桐の廃校舎に町立病院を移転することはできないのか。</p>
<p>本庄副町長</p>	<p>病院問題で廃校舎を使用するという話題は出たことがないので、新しい提案だなどと思ってお聞きしました。今の病院自体が老朽化していて、他の地区でも言われましたが、道路を渡っていく薬局の問題があり、いつか事故が起きると何年も言われていて、私が支所長でいた頃からの問題なのでずいぶん長い期間です。いろいろな手を尽くしていて、警察に何度も相談したり、薬局と協議したり、お寺の駐車場についても話したりしていますが、やはり無理があります。要請は続けますが、今の病院の建て替えのときに、場所をどうするかという問題もあります。薬局の問題と駐車場の問題を一度に解決するには、その時期になってしまうのではないかというお話をさせていた</p>

<p>自治会長 ・三石葬斎場について</p>	<p>できました。隣の保健センターの話もありますが、法律上実情に合わず、保健センターを薬局にはいけないことになっているので、一番近いところにあるのに駐車場を共用してはいけない、敷地内に民間の施設を作ってはいけないなど、いろいろなことがあってそれもできない。このことはずっと検討させていただいており、毎年のように警察にも行って、何とか信号を手押し式にさせてもらえないか、そこにもし経費がかかるなら、経費は町で負担しますということまで言っているのですが許可が下りない。本当に申し訳ないと思っていますが、そのような状態であるということでご理解いただきたい。</p> <p>三石の火葬場は古くなって、そう長くないうちに使えなくなる時期が来ると思いますが、そういう場合は廃止するという考えがあると聞きましたが、そのような考えはありますか。</p>
<p>木村地域振興部長</p>	<p>このことは、三石地区協議会でお話をさせていただいた経緯があります。町としては、現在、静内地区、三石地区に火葬場がありますが、相当な年数が経過しており、過去に炉の改修等を行っています。将来的にそれぞれを維持するには、改修にも相当な経費がかかることや三石地区の火葬件数も過去に比べると半減まではいかないが、相当落ちてきている。静内地区のセレモニーホールを使うことが多くなってきており、静内地区の火葬場を利用する頻度が高くなってきている状況もあります。それらを考えた中で、将来的に改修が出てきた場合はどうするか、新たに建てるという考え方もあると思いますが、建てる場合には相当の経費がかかります。両方の改修費をかけないとした場合には、どちらかを選択して大規模改修するということとなりますので、その場合、静内地区にある火葬場を使うことが賢明ではないかということで内部協議し、将来的には三石地区の火葬場を大規模に改修しなければならない場面が出てきた場合には静内地区の方を残していくという考えです。今すぐ使えなくなるという状況ではありませんので、将来的にはそのような方向で考えているという説明をさせていただきました。</p>
<p>自治会長 ・まちづくりに対する姿勢について</p>	<p>まちづくりに対して、どういう姿勢で取り組んでいくのかお伺いしたい。</p>
<p>大野町長</p>	<p>私の任期は残り3年ありますが、その中で何をやっていくか、来年度予算にも少し関係しますが、将来にわたる備えをしないといけないだろうと思っていて、その一つは、災害が起きたときの対応をしなければならないというところで、そちらに力点を置いてやろうと思っていること、もう一つは、町の財政は企業でいうと、もう潰れるような状態になっています。これは皆さまに事細かく行政側が使うような言葉でお話ししても難しいと思うので、簡単に言いますと、病院の維持、老人ホームの維持、下水道の維持、それぞれの施設は、利用している方からお金をいただいて運営していますが、収入は全然間に合っていない。3つ合わせると10億円以上の赤字が出る状態になっています。その赤字を何で埋めるのかとなると、皆さまからいただいた税金</p>

	<p>で埋めることになる。埋めてしまったら、違うところに投資したり、国の補助金をいただいて、町のお金を足して何か事業で使おうというような町自体のお金が本当にないのです。残された3年の中で、そういう財政状況を変えていかなければならない。それを将来に対する備えとしてやっていきたいと思っています。近く皆さまにわかりやすいように、町で自由にできるお金がこれだけあって、こういうことに使っているものをわかりやすい資料でお示ししたいと思っていますので、町財政を良くするために手数料を上げたりしなければならないと思います。そこは私の責任において、皆さまにきついことを言われようが、それは町のためだということで、意見交換やお話し合いはしますが、不退転の決意で取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>もう一つは、いろいろな業種の若い人がいますので、そこの横の連携を深めていただくようなことをやってみたいと思っていて、30歳代、40歳代の方が中心となり、新しい取組を進めていくようなことに手を差し伸べてあげたいと思っています。私ももうすぐ60歳になりますけども、60歳は60歳で社会貢献することもできると思いますが、これからの将来を担っていくのは、30歳代、40歳代の方が自分の生活も営みながら、なおかつ、この地域で生きていくことを考える年代だと思っていて、そのような方々のいろいろな取組に支援していきたいと思っています。</p>
<p>自治会員B ・旧三石第二中 跡地の活用につ いて</p>	<p>旧三石第二中学校の跡地が長期間利用されない理由と、将来どういう方向性を模索されているのかお聞かせください。</p>
<p>本庄副町長</p>	<p>旧三石町時代にパークゴルフ場を作る方向で管理棟だけ完成していますが、合併時にこの町にパークゴルフ場がたくさん必要なのかということで中座しました。その後は他の用途に使う場合は、たくさん国の補助金が入っているので返還が必要になります。いろいろ検討はしていますが、夜冷育苗のハウスを作りたいという話がありました。町として、花きのハウスを作りデルフィニウムを栽培して、個々の農家ができないことを町がやるべきではないかという案がありました。このことは、当面は実験センターでできますので、跡地の具体的な方向性はまだありません。いずれにしても何に使うかということは、将来に向けて繰り延べしているだけですから、いつかはつきりさせなければならない状態で抱えていることをご理解いただきたい。</p>
<p>自治会員B ・新規就農対策 について</p>	<p>新規就農事業の今までの実績やこれから先の可能性と、それにまつわる課題があれば教えていただきたい。</p>
<p>本庄副町長</p>	<p>新ひだか町にとって農業後継者は非常に大きな課題となっています。数的には、30名ほどの新規就農者がいます。課題となるのは研修期間中の研修費が4,000万円から5,000万円程度かかる。新規就農する以前の3年間の研修期間に助成をしていましたが、これがかなり重い。長い目で見てやっていくための仕組みづくりを考えなければならないので、今後、新規就農に対しては、国から一人当たり年間150万円の助成があります。今はそれに町で100万円を足して250万円、そして夫婦で来られると500</p>

